

妖怪が私たちを取り囲んでいる。

テレビや漫画、アニメ、映画、ゲーム、そして私たちが毎日目にする広告など、さまざまなところに妖怪が登場し、今や「妖怪ブーム」ともいえる時代だ。今やあちこちで妖怪を見かけるが、実は日本における妖怪の歴史は古代にまで遡る。

私たちはなぜ妖怪に惹かれるのだろうか。その理由の一つは、妖怪が私たちにさまざまな反応を引き起こすからであろう。妖怪は恐ろしく、残酷で、不気味だが、かわいくて愛らしいものでもある。邪悪で危険な妖怪もいるが、とても魅力的で遊び心のある妖怪もいる。おそらくこれが、妖怪を定義するのが難しい理由の一つだ。妖怪には非常に多くの種類があり、それぞれが独特で、変った特性を持っている。

疑いもなく、妖怪は日本文化の無限の魅力を秘めており、さまざまな角度から探求することができる。この展示では、文学部の各学科が一つのセクションを担当し、五つの異なる視点から妖怪を紹介する。

第1章のタイトルは「妖怪のルーツ ―古代・中世の絵巻物に見る「物怪（モノノケ）」「変化（ヘンゲ）」―」だ。平安時代から中世の妖怪の先祖たちを紹介する。

第2章のタイトルは「錦絵に見る東海道の妖怪たち」だ。錦絵に描かれた妖怪を紹介する。

第3章のタイトルは「『Fearsome Critters』―米加妖怪図絵―」だ。アメリカとカナダの妖怪に関する本、ヘンリー・H・トライオン著『Fearsome Critters (1939)』を紹介する。(Fearsome critters = 恐ろしい生き物)

第4章「妖怪の世界デビュー」では、明治時代に英語圏に妖怪を紹介した四人の作家に焦点を当てる。

第5章のタイトルは「妖怪を、英語で、世界に」だ。日本の英語教育に妖怪をどのように活用できるかを示す。

妖怪に対する五つの異なる視点が、妖怪や日本文化に対する新たな見方を与えてくれると思う。準備はいいかな？さあ、妖怪の世界へ足を踏み入れてみよう！